

# 【Day 1 11月7日(木) プログラム】

\*内容の一部・時間帯につきましては、変更が生じる可能性がありますことご了承ください。

8:30-9:00 受付

9:00-9:15 エンピスタからのご挨拶

## Day 1 プログラム



橋場 千織 先生

座長 橋場 千織先生 はしば矯正歯科

9:15-10:30

### 「アルティメットなシステムが起こす、パッシブライゼーションの革命」



Dr. Stuart Frost

「デイモン アルティマ」の開発者であるドワイト・デイモン先生がなぜパッシブセルフライゼーションに革命を起こそうと決意したのか、そしてそれがデイモン先生の臨床と患者へどのような影響を与えたかについてお話しします。また、このブラケットシステムの貢献によって、ローテーションや側方へのコントロールをより早くし、フィニッシングにおいて三次元的なコントロールのためのワイヤーバンドを最小限にすることで、最適な治療結果を得るための秘訣についてお話しします。

10:30-10:45

休憩

10:45-11:15

### 「デイモン アルティマ システムを用いた日本人成人患者の症例報告」



五百井 秀樹 先生

矯正歯科臨床において、患者にとって満足した矯正治療とは、主訴が改善され、美しい歯並びとスマイルを獲得し、治療期間中に不快な痛みや違和感が少なく、比較的短期間に終了する治療と考えられる。矯正歯科医にとって満足した矯正治療は、上記のことに加え、精密な歯の配列および緊密で機能的な咬合の獲得などが挙げられる。今回使用したデイモン アルティマ システムでは、これらの事柄が高次元で達成することができたので報告する。

11:15-11:45

### 「デイモン アルティマ システムで治療した症例からその特徴を考える」



井口 善隆 先生

デイモン アルティマ システムを使用した症例から、その特徴を考察します。私にとって、システムを使い始めた初期の症例ですが、そのメリットを十分感じる事が出来ました。症例を供覧しながら、その特徴を考えていきたいと思います。

11:45-12:15



菊池 香織 先生

### 「シンメトリークリアで叶えるストレスフリーな治療」

セラミックブラケットは矯正治療に審美性を求める患者に対する選択肢のひとつとして欠かせないものであるが、日々の臨床に取り入れるためには、操作性、快適性、高い治療効果、コストなどのバランスが取れていることが求められる。当院が導入しているシンメトリークリアは、脱落が非常に少なく、快適にデボンディングでき、また様々な観点から、術者、患者の双方にとってストレスフリーな治療を実現していると考えます。この口演では、シンメトリークリアの特徴や実際の臨床から得た有用性ととも、当院における治療例を紹介する。

12:15-13:30

ランチ \* Westin Hotel の和洋中ビュッフェランチをお楽しみいただけます。

13:30-14:20



外木 守雄 先生

### 「Air way Dentistry のススメ」

歯科治療と気道、関係ないと思われるこの二つの事象は、実は密接に関連しています。歯列矯正はもとより、義歯などによる口腔容積の変化は、舌の位置を変化させ、結果的に気道を狭くする可能性があります。これらの気道の変化は全身に悪影響を及ぼすことがあるので要注意です。歯科治療に際して気道を考える重要性について解説します。

14:20-14:50



任 剛一 先生

### 「DX（デジタルトランスフォーメーション）時代の矯正歯科におけるCBCTとIOS」

デジタルデンティストリーの急速な発展に伴い、CBCT のみならず IOS（インターオーラルスキャナー）の臨床現場での応用については、もはや一般化している感があります。こうした DX 化の流れの中で、矯正歯科臨床における「デジタルセットアップ」の進化は留まる所を知らず、精密かつ繊細なシミュレーションを術者に提供すると共に、生体に安全な治療プランを患者へ提供できる時代となってきています。本口演では、「DEXIS IS 3800W」を用いた当院でのデジタルワークフローに加え、矯正歯科開業医が必ず直面する「保管模型」問題について、私たちが取り組んでいる応用例についてもご紹介させていただきます。

14:50-15:05

休憩

15:05-16:35



Dr. Chris Chang

### 「『デモンシステム』と TADs を使用したⅢ級治療」

骨格性Ⅲ級不正咬合は、一般的に成長期の終了後に、大がかりな矯正歯科治療と矯正治療のための外科処置が行われます。保存的な治療（外科処置を行わない）の場合には、3次元的に歯を大きく移動させる必要があります。テンポラリーアンカレッジデバイス(TAD)を歯根間に埋入した場合には、ベースとなる顎骨内で歯列全体を移動させるため限界があります。しかし、上顎および下顎の歯槽外（歯根間ではない）に埋入する歯槽外 TAD は、成長期の小児から成人まで、幅広い歯列矯正における固定源となりえます。

骨格性Ⅲ級不正咬合の多くは、外科処置を行うことなく、管理された効果的な治療により満足のいく咬合を得ることができるのです。本口演では、デimonと TAD を組み合わせることで、重度のⅢ級不正咬合を外科処置なく保存的に治療する可能性をご紹介します。

---

16:35-16:45

Q&A

---

18:00-

ウェルカム レセプション (Iron Bay, 23F)

\* Westin Hotel 最上階での美しい夜景とインターナショナルな美味しいディナーをお楽しみいただけます。